

2 保育の有り方・子どもへの対応	評価	
	A	良い
	B	普通
	C	不十分
1. 健康と安全への配慮		
○朝の登園時・降園時には特に視診を大切にして子どもの体調を確認	A	
○保育中は常に子供の安全に気を配っている。	B	
○事故や怪我が発生した場合、直ぐに園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に診てもらうなど適切な処置を行う。	A	
○園内で危険な個所・遊び方は無いか常に観察している。	A	
2. 子どもの理解		
○個々の子どもの発達の姿や課題について見通しを持っている。	B	
○子ども同士の関わりを把握している。	A	
○子ども達が今、興味を持っていることがわかる。	A	
3. 指導者のあり方		
○子供の気持ちや思いに共感しながら関わっている。	A	
○園独自の環境を最大限に活用し戸外遊びを心掛け日々のびのび遊ぶ努力をしている。	A	
○自身が、善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培うモデルに常になっている。	B	
○子ども一人ひとりのありのままの姿を特性とし、理解するよう努めている。	A	
○子どもの年齢や発達に応じた言葉がけをしている。	A	
○子どもを否定せず褒めたり励ましたり、目標を持たせるような言葉がけをしている。	A	
4. 保育者同士の協力・連携		
○クラスに関係なく、保育者が子どもに適切な言葉がけや対応をしている。	A	
○子どものことについて常に園長、職員間で話し合い、クラス、学年を超えて情報を共有している。	B	
○他のクラスや異年齢の子どもと関わられるよう縦・横の繋がりをもち様々な保育の形態を取り入れている。	B	
総合評価		A

評価・反省

反省を基に来年度、改善・実行すること